

この夏は猛暑ということばが盛んに使われました。熱中症で病院に搬送された人の数の多さからもそれが分かりますが、暑さを甘く見てはいけなかったと感じた夏でした。夏の暑さだけでなく、大雨、台風、竜巻、さらには冬の寒さや降雪など、これまで日本は快適な国と感じていた私たちはもう少し自然の様々な現象にしっかりと向き合う必要がありそうです。学校という場で子どもたちの安全な生活に責任を持たなければならない私たちも、子どもたちの登下校時の気象情報などを把握することも含めて適切な判断をしなければならないと考えます。

【長期休みのあと】

夏休み中に子どもたちからおたよりをいただきました。そのおたよりでは、おじいちゃんやおばあちゃんに会いに行ったこと、旅行に行ったこと、運動をがんばっていること、おいしいものを食べたことなど、いろいろな生活の場面を私に伝えてくれました。その一つひとつの文章に私は引き込まれ、まるで子どもたちと同じ経験をしているような気持ちになることができました。そして、自分が祖父、祖母と過ごした頃のこと、夏の暑いときにひたすらグラウンドで汗を流していた頃のことを思い出させてくれました。返事を書くときは、子どもの頃の自分に宛てて書くような気持ちになれたことを幸せに感じながら、楽しい時間を過ごすことができました。

また、おたよりには「学校が楽しみ」「早く学校に行きたい」と書いてあるものがありました。嬉しく思いながらも、「みんながそう思っているだろうか？」と不安な気持ちにもなりました。新聞などでは、長期休み明けには子どもの事故(※)が多いと書かれていましたし、学校に行けないときは図書館にどうぞ、と声かけしている地域もあったようです。長期休みに入る前の子どもたち一人ひとりの様子を把握していることが大事で、その際に気になることがあればそのままにしておかないようにしています。8月26日の授業開始日は数名の欠席がありましたが、子どもたちの元気な様子に安心することができました。

朝会では、先生がたはそういう心配もしているよと子どもたちに伝え、どのような心配事がある人が学校に行くことを不安に思うのかについて考えてみました。私からは、「勉強が心配？ 友だちと仲良くできるか心配？ いじわるされたらどうしようって考えると心配？ 大好きなお母さんと離れたくない？」というようなことを言ってみました。最後の「お母さんと・・・」と言ったところで、ほとんどの子は笑っていましたが、私には何人かの子どもが心の中で「うん」と頷いているようにも見えました。

そういう不安な気持ちを持っている人にみんなは何をしてあげられるのか。

子どもたちに、「もしも、皆さんのまわりに、学校が始まった今日、心配なことがありそうな顔をしている人、元気がないように思える人がいたら、声をかけてあげてください。お話をしてあげてください。それから、みんなに大切にしてほしいことは、人の話を最後まできちんと聞くこと。途中で“なんだそんなこと、それ違うよ、何言ってるの”というようなことを言わないこと。話す人、何かを発表する人が自分の考えを安心して発表できるようにしてあげることを特に大切にしましょう。」と伝えました。

子どもたち一人ひとりが安心して生活でき、自分が受け入れられていると感じられるようにするためにも、このことは特に大切だと考えています。

(※) ここでは言葉を変えて「事故」と書きました。

【手帳にあったメモから】

(優しい先生)	(ありがたい先生)
いいね	→ ○○がいいね
すごいね	→ ○○がすごいね
がんばって	→ ○○をがんばって
ほめてくれる	→ 具体的にほめてくれる
励ましてくれる	→ 具体的に励ましてくれる
花丸	→ アンダーラインと花丸
コメント	→ 気持ちをくんだコメント
これはこうです	→ それならこうしたら

手帳に書きとめたものをときどき読み返してみることがあります。その一つに左の四角の中のようなものがありました。

「優しい先生」と「ありがたい先生」がこういう基準によっても分けられるということです。

読んでみて、確かにそうだなと思うことばかりですが、今の自分にこれができているかといえばそうではないことに気づきます。

そうなるように努力していかなければならないと強く思います。

また、「優しい」「ありがたい」の次に来る「先生」を「親」または「家族」にしてもよいと考えます。

これが子どもに自信を持たせ、伸ばすコツかもしれませぬ。